

第 88 回 IEC エジンバラ大会参加報告

IEC 活動推進会議 事務局長
小坂 英明

第 88 回 IEC 大会が、2024 年 10 月 21 日～10 月 25 日にスコットランドの首都エジンバラにて開催されました。今回は一昨年のサンフランシスコ大会から 2 年ぶりの対面開催となりました。

大会の参加登録者数は 1,908 名を数え、サンフランシスコ大会と同程度の規模となりました。(表 1)



図1 IEC エジンバラ大会会場

[表1 近年の IEC 大会参加登録者数]

開催年	開催場所	参加登録者数	うち、日本	備考
2014 年	東京	2,367	731	
2015 年	ミンスク	1,289	110	
2016 年	フランクフルト	3,227	410	
2017 年	ウラジオストク	1,381	194	
2018 年	釜山	3,375	471	
2019 年	上海	3,614	494	
2020 年	ジュネーブ(リモート)	790	34	リモート開催
2021 年	ドバイ(ハイブリッド)	890	37	ハイブリッド開催
2022 年	サンフランシスコ	2,218	306	
2023 年	カイロ(リモート)	1,977	162	リモート開催
2024 年	エジンバラ	1,908	133	

国別の参加者では、日本は中国(211 名)、米国(136 名)に次ぐ 133 名の登録がありました。(表 2)

[表2 今大会の国別登録者数(上位)]

国別参加登録者数(上位 10 カ国)			
1. 中国	211 名	6. 韓国	92 名
2. 米国	136 名	7. フランス	69 名
3. 日本	133 名	8. カナダ	53 名
4. ドイツ	117 名	9. イタリア	41 名
5. 英国	100 名	10. インド	39 名

大会期間中に総会(GA: General Assembly)をはじめ、評議会(IB: IEC Board)、標準管理評議会(SMB: Standardization Management Board)、適合性評価評議会(CAB: Conformity Assessment Board)、市場戦略評議会(MSB: Market Strategy Board)などの IEC 上層の各委員会や、IEC Forum、Asia Pacific Cooperation Forum(APCF)など各種の会議、イベントが実施されました。(表 3)

[表3 主要会議日程]

	会議・イベント名	時間 (GMT)
10/20(日)	PresCom	AM
	APCF	1400-1800
	APCF Reception	1800-2000
10/21(月)	SMB	0830-1730
	CAB	0830-1730
	MSB	0900-1600
	Open Ceremony & Welcome reception	1930-2130
10/22(火)	IEC Forum	0930-1330
	Joint CAB MSB SMB Strategic Session	1400-1700
10/23(水)	IB	0830-1700
10/24(木)	IEC Academy & Capacity Building workshop	0830-1230
	MSB White Paper Session	1400-1700
10/25(金)	General Assembly	0830-1530
	Open Session	1530-1630
	Farewell Party	1930-2300
10/26(土)	PresCom	AM

本稿では IEC の最高意思決定機関である総会 (General Assembly) の概要を報告いたします。

1. IEC 次期役員及び上層委員会委員(選挙結果等)

次期 IEC 会長として、元 SMB(標準管理評議会)議長兼 IEC 副会長の Mr. James E. MATTHEWS III (米国)が信任されました。

また、IB(評議会)、BAC(ビジネス諮問委員会)、SMB(標準管理評議会)および CAB(適合性評価評議会)の各委員についても選挙が実施されましたが、いずれも議席数を超える立候補がなかったため、実質信任投票となりました。なお、日本からは、BAC 委員として野田氏(日本規格協会)が信任されました。(表 4 参照)。



図2 総会の様子

[表 4 総会での選挙結果(次期会長以外は任期:2025年~2027年)]

ポスト	氏名(国)
次期 IEC 会長(2026年~2028年)	Mr. James E. MATTHEWS Ⅲ(米国)
IB 委員(1名:グループ A 国)	Mr. Chenguang GUO(中国)
IB 委員(4名:非グループ A 国)	Mrs. Farah Al Zarooni (UAE) Mr. Andrew Chow Khim Kun(シンガポール) *再任 Mr. Gabriele Elia (イタリア) Mr. Håkon Rem(ノルウェー)
BAC 委員(2名:グループ A 国)	Ms. Limei YU(中国) *再任 Mr. Koichi NODA(日本:JSA)
BAC 委員(3名:非グループ A 国)	Mr. Arian MONEM(オーストリア) Mr. Rajneesh KHOSLA(インド) Mr. Ivano VISINTANER(イタリア) *再任
SMB 委員(1名:自動選出)	Mr. Li CHONG(中国)
SMB 委員(2名:選挙)	Mr. Bernhard SPALT(オーストリア) *再任 Mr. Ian VERHAPPEN(カナダ) *再任
CAB 委員(2名:自動選出)	Mr. Lei QIU(中国) Mr. Richard WHITE(英国)
CAB 委員(2名:選挙)	Mr. Markus AHVENUS(フィンランド) *再任 Mr. Gyusik, CHO(韓国) *再任

2. 財務関連

2023年監査済み IEC 法定財務諸表、2025年予算案について、以下の内容で承認されました。

<p>■ 会計関係</p> <p>□ 2023年監査済みIEC法定財務諸表の承認</p> <p>【収支】</p> <p>収入: 32.8百万CHF (51.0億円) 2022年比 -0.26%</p> <p>支出: 34.9 " (54.3 ") " +17.2%</p> <p>収 支: -2.1 " (-3.3 ") " -168.5%</p> <p style="text-align: right;">※2023年年間平均TTBレート: 1スイスフラン=155.64円で換算</p>
<p>□ 2025年IEC法定予算案の承認</p> <p>【IEC法定予算案】</p> <p>総収入: 34.5百万CHF (59.0億円) 2024年予算比 +4.6%</p> <p>総支出: 41.5 " (71.0 ") " -11.3%</p> <p>収 支: -7.0 " (-12.0 ")</p> <p style="text-align: right;">※予算要求レート: 1スイスフラン=171円で換算</p>

各国分担金案は、以下の内容で承認されました。

- 2025年各国分担金
- 各国分担比率に変更なし(日本は8.18%)
- 分担額は世界的なインフレ率を考慮して3.0%増
0.98百万CHF(1.7億円)

※予算要求レート: 1スイスフラン=171円で換算

3. 今後の IEC 大会開催予定国(都市)

2025年のIEC大会がニューデリー(インド)にて2025年9月15日~9月19日に開催されることが確認されました。

2026年の開催地については、ハンブルグ(ドイツ)での開催が承認されました。(表5参照)。

[表5 2025年以降のIEC大会開催予定]

開催年	国(都市)[開催期間]
2025年	ニューデリー(インド)9/15~9/19
2026年	ハンブルグ(ドイツ)
2027年	未定
2028年	未定

■ 所感

2022年のサンフランシスコ大会以来、2年ぶりの対面開催となりましたが、無事に総会(General Assembly)が開催され、来年の活動につなげることができました。今大会では、例年参加者が多い欧州、北米及び日本を含む東アジア以外にも、インドやサウジアラビアなど、新たにIEC活動を活発化させてきている国からの参加者も増加しました。

ワークショップなどでは、Smart規格、OSD(Online Standard Development)など、Dxに関するテーマを取り上げるものが多くあり、IEC内の改革が進む様子を実感しました。

大会期間中に開催されたSMB会議において、トーマス・エジソン賞受賞者の紹介があり、5名の受賞者の一人としてTC 86/SC 86B幹事であるNTTアドバンステクノロジー株式会社の富田様が紹介されました。本賞は技術専門分野でのIECへの貢献を顕彰するもので、多くても毎年9名までしか表彰されませんが、日本からは10年連続の受賞となり、IECにおける日本の貢献の高さをアピールできました。

最後に、今大会の特長として、様々な会議、イベントで円卓を囲んでグループ討議を行う形式が採用され、各国からの参加者と交流できる機会を増やしていること、持続可能な社会を目指して会場内での飲食の提供に使い捨て食器を使わなかったり、3か所に分かれた会場間の移動手段としてトラム、バスなどの公共交通機関を推奨するなど、主催者の開催にあたっての強いメッセージが打ち出された大会でもありました。

IEC-APC事務局として日本のIEC活動支援のレベルアップを図るためにも、継続的に情報のキャッチアップを行っていく必要があると感じました。

以上